

I 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	鳴門市立鳴門東小学校							計	教員数
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	7	12
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	
児童数	17	8	16	7	11	14	2	75	

II 研究の概要

1. 研究主題

基礎的・基本的な学力の定着を図るための学習指導

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

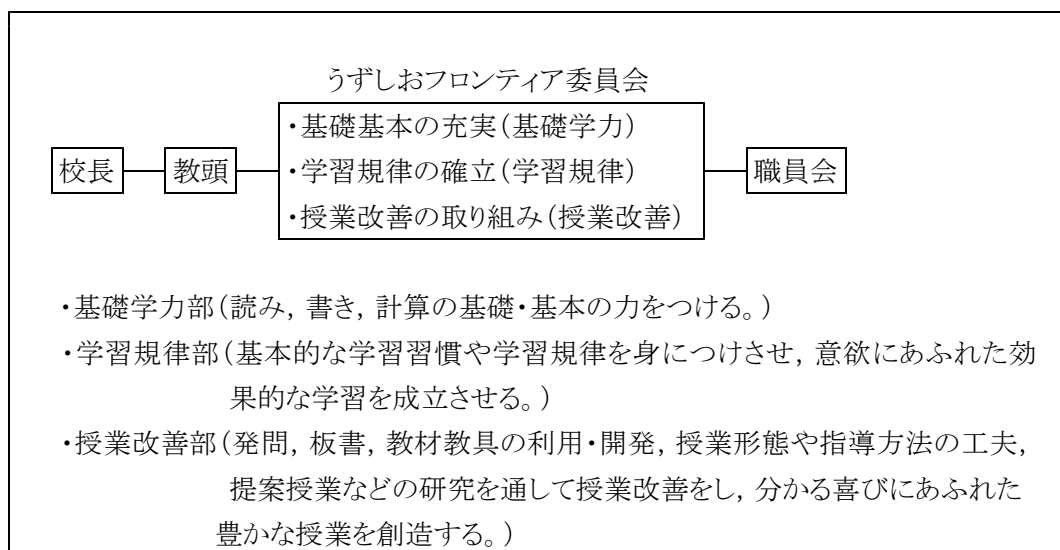
1～6学年の国語と算数
 全学年にわたって、読み・書き・計算の基礎的・基本的な学力の定着を図るため

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎的・基本的な学力の定着を図るための学習指導の工夫 研究の見通し(仮説) 私たちは、子どもたちが「確かな学力」を身につけるためには、基礎・基本の充実、学習規律の確立、授業改善の取り組みの3つが重要だと考えている。 基礎・基本の基盤となることは、読むこと、書くこと、計算することである。このことをあらゆる場で、集中的に取り組むことによって、学力の基盤をつくり、学力の自立を目指すのである。 次に考えなければいけないのが、学習の集団性・社会性である。学ぶ場は学習する雰囲気や意欲にあふれていることが大切である。そのためにはきちんとした学習規律が整い、豊かな人間関係が形成されなくてはいけない。 さらに、1時限の授業が豊かな内容で充実したものであること。言い換えたら、わかる喜びを満たす授業であることが大切である。そのために、しっかりした教材研究はもちろんのこと、教材教具の工夫・改善、研究授業による指導技術の向上が欠かせない。 これら3つのことが有機的に機能したときに、学力が生きる力となり自己実現に向かって歩み出すのではないかと考えている。</p> <p>研究の内容・方法 「うずしおフロンティア委員会」の設立と運用 カリキュラムの見直しと朝の活動の積極的な活用と充実 T・T指導の重点活用とマニュアルの確立 全学年の学力テストの実施 先進校視察及び研究校参加 研究授業の推進と外部講師を招いての研究内容の深化</p>
--------	---

平成16年度	<p>基礎的・基本的な学力の定着に向けて、指導体制を見直し、場や時間の使い方を工夫し、さらに効果的な教材・教具の活用を図りたい。また、指導方法の工夫・改善やよりきめ細かな指導によって、個を生かし、学力のレベルアップを目指したい。 また、学力テストにおける結果を十分分析し、児童一人一人を見つめ、それぞれの実態に応じたきめ細かな指導に取り組みたい。 学習・生活の意識調査を実施し、子どもたちの現状をより深く把握し、実践に生かしたい。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果と課題

全体として

- ・子どもたちにとって, 本当に必要な「学力」とは何か, について考えるよい機会になった。
- ・基礎的・基本的な学力の定着を図るための学習指導を進めることができた。
- ・読み, 書き, 計算の基礎学力の向上が図れた。TTや少人数指導, 習熟度別指導等の指導方法の工夫・改善が一步前進した。
- ・单元の中で, どこをTTに, 少人数にするか工夫が必要である。また, 一单元の中で考えてみたり, 授業時間を弾力化するなどの方法も考えられる。
- ・子どものつまずきに対応しやすくなった。
- ・全体的に取り組みが遅れたため, 学力テストや研究授業の成果や反省点を十分に生かすところまでには至らなかった。個々の子どもに対して, よりきめ細かな指導を行うことによって, 個に応じた学力のレベルアップを目指したい。
- ・TT指導においては, 授業での打ち合わせが大切になるが, 打ち合わせの時間の確保が十分でない。

○基礎学力部

「教師によるアンケート調査」より

- ・与えられた課題には熱心に取り組むが, 自発的に問題に取り組むことが少ない。
- ・文章の読み取りや文章問題など, 思考を要するものが苦手で, 消極的な態度になりがちである。
- ・前学年で学習した内容の理解が不十分な児童もいる。
- ・読解力が不足しているため, 文章題を読みとることが困難な児童がいるなどの結果が現れた。

そこで、朝の活動時間(8:15~8:30)における活用として、基礎学力をつけるために国語、算数科における基礎問題、読書指導、辞書などの使い方を通して基礎学力の習得を目指した。以前から続けていたことでもあり学習習慣の定着ははかれている一方指導する側の問題としては、プリントづくりの労力や答え合わせなどにおいて、一人一人に目がいき届きにくく、また、時間的な余裕がないのが現実である。

「学力テスト」より

- ・ 全学年で、12月に国語・算数科標準学力のテストを行った。結果の考察をして、全体的なデータは参考になるが、集中力の差がテストの結果に表れているのではないか。標準学力検査はいろいろな条件によって左右される部分もあるので、単元後のテストとはちがってくる。参考データとしては捉えられるが、真の学力としての疑問点も多いなどがあげられた。

来年度も標準学力検査は予定している。

学習規律部

学習規律を身につけさせるために、繰り返し指導する。学年の発達段階を考慮する。具体的な学習の場で体得させる。正しい姿勢、学習の準備、話すこと・聞くことに重点を置き取り組んだ。

具体的な項目として

- ・ 4月当初に、共通理解を図り、年間を通して進める。
- ・ 発表の仕方について、いろいろ工夫・改善をする。
- ・ 姿勢のよくない子どもが目立つ。繰り返し指導を続けていく必要がある。
- ・ 学習規律も大切だが、授業の改善や教材の工夫などについては、もう少し細かく分かれて話し合い次の段階に進める必要がある。

授業改善部

具体的な授業実践

- ・ 自己の弱点を明らかにする → ニーズに対応したプリント学習
 - ・ 課題達成した後に、子どもが自由に取り組むことのできる反復練習用プリントを用意しておく。
 - ・ 習熟度別学習・・・計算や図形等の学習には適しているが、文章題にはあまり適さない。まとめの段階で有効ではないか。
 - ・ TT(T1 一斉指導, T2 個別指導)
 - ・ ヒントカードやチャレンジプリントを活用した学習
- 全体的に学習意欲の向上が見られたことは、本年度の取り組みの成果と言える。しかし、学力の顕著な変化はまだみられないのが現状である。課題がたくさん用意されているので、どんどん進めていこうという気持ちが出てきて、自分で学ぶ態度が身につくところ。

来年度の課題として

- ・ 課題の特性に応じた指導の方法を練り上げる。
- ・ プリントの準備が大変なので、プリントがすぐできるように何か良い手だてを考える。プリントを共有する(学年別プリント整理棚など)
- ・ 子どものつまずきは多種多様である。そのつまずきに対応するために、すべての学年の問題を自由に選ぶことのできるスペースをつくる。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 研究授業実施(2・3・5年)
- ・ 学力検査の実施(12月) 学力検査の分析をし、児童のつまずきを少なくできるようにする。

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・ 学校全体として成果を明らかにし、課題を分析する。
- ・ 成果をプラス評価し、子どもたちに伝える。(新たな学習の動機づけや意欲づくりにつなげる。)
- ・ 保護者や地域にいろいろな手段を使って成果を発信し、さらなる理解と協力を得る。
- ・ 近隣校(小中)や協力校などと成果の交流をし、実践を深める。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無